
家は月日を語らず

たかぴょん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

家は月日を語らず

【Nコード】

N0249D

【作者名】

たかぴょん

【あらすじ】

お母さんが死んじゃうよ。もうすぐ。あと十年。天涯孤独なわたし作家になれますように

家は月日を語らず。そんなことを書いては、あるテレビCMばかり流している旧財閥系建設会社にお叱りを受けそうだ。

わたしは家の中にいる。自分の部屋でぼつんとしている寂しさを好まないで、日本文学というものを居間で熟読していた。古い小説になると「汽車」や「停車場（バス停ではなく駅のこと）」、「羽織袴」など見馴れない代名詞が顔を出す。とどめは「親父は元緑生まれで、わたしが四つの時に江戸へ上京し……」などと時代錯誤はなはだしいストーリーテラーが威勢ぶって筋書きを述べ出す。

わたしは戦争を挟んだころ書かれた小説が好きだ。黄ばんだ頂をめくるたびに、ほこりっぽい感触が右手の人差し指に走り、なおかつ乾いた精液のような匂いがわたしの理性をたしなめる。絶望を跳ね除ける息吹き、驚愕、ため息の中の不安、死への薄ら笑い。あらゆるプレスが煙となり、本の中から漂う。わたしはそいつらから四面楚歌に陥らないためにも、居間での接触を試みるのだらう。

さらに未開の地へ読み進めると？お父様？が江戸時代生まれだと、文字が愉快地踊っていた。八行先へ読み進んだ。？吾は西暦1922年生まれ、二十一世紀は未知数だ？と書かれてある。人々は《将来の固形有機物》を期待しながら汗を流していた。目を話せば、この日本ではやがて新幹線が走り、携帯電話が肌身から離せなくなり、不治の病が平穩無事に究明、完治されて行く。

そうだ、どんな時代を生きていても、わたしたちは友人だ。童子のように時代の接点をけんけんしながら遊ぶ。それが楽しい。柱に自分自身の背丈を、期待値を含めて、鯖を読んだ高さに印を付ける。月日が経ったのでワンモア・チャンス。いつの間にか見栄の垣根を飛び越えている。時代はゼリーのように『理想』を『真実』へ固め

て行く。

本をつかむわたしの目先で母がうたた寝をしていた。こたつ兼用のテーブルの上に頭を垂らせている。後頭部こそ黒かったが、側頭部は白みがかかっている。どこかで見たかつらに似ている。まさか更けるとは思わなかった。はるか昔わたしは彼女の真っ白い手を離さなかった。が、部屋の中にある椅子やソファ、茶だんす、照明は年を取っていない！

人間だけが、生き物だけが、死へ向かって突き進み、希望のバトンを子孫へ手渡しして行く。この世の床に堕ち？オギャー？と生まれ手が担うバトン。

家の中の固形物はあの頃と何一つといって変わっていない。視覚に映る刺激はコモン・ロー（共通法）。白みがかかり始めた母の目に映るわたしは、あの頃のままだろう。わたしの目にも……。あなたはあのころのまま生きているんだろう。もしかするとわたしも、あのころのままの子どもだと思っている。

家は月日を語らず。

だから気が休まる。競争社会から逃げられる、世界で一つのパラダイスだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0249d/>

家は月日を語らず

2011年2月3日06時27分発行